

電制コムテック広報紙

ヒライ

令和8年 年始号

発行

電制コムテック株式会社

広報室

〒067-0051

江別市工業町8番地の13

TEL(011)380-2101

FAX(011)380-2103

<https://www.dencom.co.jp>

DENCOM

年頭のご挨拶

代表取締役 田上 寛



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、社会や経営環境が大きく変化する中、社員一人一人の努力とお取引先の皆様のご支援により、着実に前進することができました。心より感謝申し上げます。

2025年は、憲政史上初となる女性総理大臣が誕生し、高市内閣が始

動しました。高市総理の憧れの政治家が「鉄の女」といわれたマーガレット・サッチャー元首相とのことで、「サッチャー氏には強い信念と実行力では負けません」とも高市総理自身が力強く語られています。強い日本経済の再生と国民生活の安心に向けておおいに躍動していただきたいと思います。

当社は、昨年も北海道電力株式会社様との協力関係で推し進めている水力発電用保守支援装置の道外への展開がお陰様で順調であり、お客様からも導入効果が非常に高いとして評価をいただくなど、道外への技術貢献についても手応えとして感じられるようになってきました。

また昨年の秋にはもう一つ、旭川

医科大学との共同研究の成果として製品化した脊柱側弯症検査用機器“スコリオデバイス”が、症状の早期発見に期待できる製品であるとして、令和7年度 北海道新技術・新製品開発賞の「ものづくり部門」での大賞を頂きました。これらの成果を得たことは、より一層の価値ある製品作りに努める励みとなるものです。

2026年の当社は、ラピダスやデータセンターなどで北海道の電力需要が増え設備増強計画が一気に進むこれから先を踏まえ、電力機器開発力強化と技術員体制強化を最重要課題と位置付けております。また、今年はサステナブル経営への意識を深めながらの事業活動にも取り組みます。これは単に環境に配慮するとい

うだけでなく、社会・環境・経済の三つの側面で持続可能な価値を生み出す経営を意味しており、決して簡単なことではありません。当社は昨年3月に健康経営優良法人の認定を受けていることもあり、まずは働きがいのある職場作りから始め、環境負荷の軽減、地域社会との共生など、あらゆる面から「持続可能」を意識した事業活動を推進します。

変化のスピードが増す今こそ、短期的な利益にとらわれることのない、未来を見据えた責任ある企業行動が求められています。当社は電力事業の更なる強化とともに、健康福祉医療の分野でも社会に貢献できるよう、サステナブル経営を通じて「求められ続ける企業」とするべく、一歩ずつ確かな歩みを進めてまいります。

本年も、社員一同力を合わせ、より良い未来の実現に向けて挑戦を続ける所存であります。

どうぞ変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

北海道新技術・新製品開発賞「ものづくり部門」大賞を受賞

当社のスコリオデバイスが令和7年度 北海道新技術・新製品開発賞「ものづくり部門」の大賞を受賞いたしました。当社では平成10年度のユアトーンに続く大賞となります。

本製品は、脊柱側弯症（脊柱が左右に曲がる病気）の検査機器として、教育・医療機関での活躍が期待されます。引き続き、皆様のお役に立つ製品開発を心がけてまいります。



石狩変電所向け各種配電盤納入および試験業務

北海道電力ネットワーク株式会社様の石狩変電所ガス絶縁開閉装置(以下、GIS)設置ほか関連工事にともない、遠方監視制御装置(以下、テレコン)、66kV回線制御盤、送電線保護遮断器盤を製作し、納入いたしました。あわせて、株式会社北海電工様より試験業務を受注し、ケーブル接続図等の図面作成業務や現地での総合試験業務も実施いたしました。

本工事では、既設GIS母線と新GIS母線を電力ケーブルにより接続する構成となっており、機器間のインターロック回路が複雑化することから、設計段階よりお客様と綿密な打ち合わせを重ね、認識の齟齬が生じないよう慎重に進めてまいりました。

また、通常の変電所構成とは異なり、新本館にテレコンを設置し、既設本館の各配電盤との信号連携を行う形態となっております。そのため、配電盤設計段階から既設回路と新規回路の整合性に問題がないかを都度

確認しながら作業を進めております。

現地作業では、新GISの総合試験および既設回線におけるテレコン切替作業を中心に実施しました。特に配電A・Bパンクの切替作業は休日深夜帯での対応が必要となり、作業工程や人員配置について事前に打ち合わせを行い、円滑な作業遂行に努めました。

引き続き関連工事において配電盤を納入する予定ですので、設備が増加する変電所構成に対して的確に対応し、電力の安定供給に貢献できるよう尽力してまいります。



【現地据付された回線制御盤】

若手社員奮闘記 -吉田 海人-

現在、私は主に水力発電関係各所へ納める制御盤の設計や現地施工工事および試験に携わっております。

今年は北海道電力株式会社様より受注いたしましたシイシカリベツ取水堰自動制御盤更新に向けた一連の業務を任されており、仕様に則った装置を作り上げるということに日々精進しております。

本システムはシイシカリベツ取水堰管理所内に自動制御盤を設置し、沈砂池第1制水門の自動制御、沈砂池第1制水門と第2制水門の手動制御および遠方制御を行う装置です。既設装置の制御内容を踏襲しながら

新たに自動制御状況の確認や自動制御に係る各種設定変更をタッチパネルにより可能とした画面の作成およびPLCプログラム作成に尽力しております。

若輩者ではございますが、誠心誠意努めますので今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



システム技術部ICT課 吉田 海人

若手社員奮闘記 -古根川 健斗-

2024年度に新卒入社した製造課の古根川です。覚えることや考えることが多く、あつという間に1年間が経過しました。

製造課では主に発電所や変電所に納める盤を製作しています。配属当初は、盤の組み立て方や配線の仕方、図面の見方までも分からず一つ一つの作業に時間がかかってしまった、配線ミスをして作業をやり直したり、組み立て途中に部品を壊してしまったりと失敗も多々ありました。

ですが、2年目となると内容を理解して取り組めるようになったことを評価していただき、一人での盤製

作も任されました。製品が完成した際は1年間の成長を実感し、より意欲的に仕事に向き合えるようになりました。

最後に、まだまだ未熟者ではありますが、これからも精進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



製造部製造課 古根川健斗

苦東厚真発電所 環境データ処理システム更新

北海道電力株式会社様の苦東厚真発電所環境データ処理システム更新を現在実施しております。

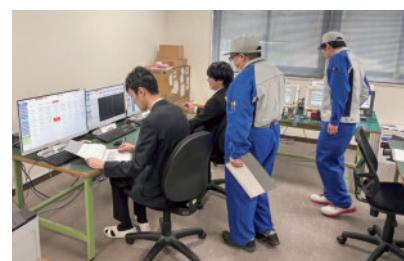
本システムは、火力発電所が発電する際に発生する窒素酸化物(NOx)や硫黄酸化物(SOx)などの排出ガスや、冷却水の取排水温度差等の環境データが基準値内であるかを記録し、北海道へ報告するシステムになります。

1990年の初号機納入時から36年間、当社のシステムをご使用いただき、大規模更新は今回で2回目となります。今回の更新では、水分補正値の入力忘れを防ぐ通知機能や電力量による日報検索機能など新機能の追加に加え、トレンドグラフ画面の表示期間を最大7日間表示できるよう変更するなど既設機能の改良も

あわせて実施しております。

10月1日に実施した工場立会試験では、新機能や改良した機能・画面等の動作や北海道への送信機能を納入実機にてご確認いただきました。その後、現地据付・調整試験を完了し、現在は試運転期間となっております。

なお、今回の更新にあたり、北海道電力株式会社苦東厚真発電所・環境技術課の皆様には多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



【立会試験の様子】

石狩川水系 遠隔制御装置の受注

北海道電力株式会社様より受注いたしました石狩川水系遠隔制御装置をご紹介いたします。

本システムは、水力センターに設置の遠隔操作卓と、各取水堰に設置の遠隔制御装置と機側盤で構成されています。遠隔操作卓は、1つのタッチパネルモニターと2つの操作レバーによって対象堰と対象ゲートを選択することで、4か所の堰にある排砂ゲートの監視制御を可能とした、操作性・安全性・合理性に配慮した仕様となっています。遠隔制御装置は、遠隔操作卓からの制御指令を中継して機側盤へ伝送し、ゲート情報を遠隔操作卓とダム管理装置へ伝送する役割も担うほか、制御権(遠隔/直接)の切り替え機能も有します。また、各排砂ゲートに開度検出

器を新設しており、検出した開度は現場や水力センターで監視できるのと同時に、統括ダム管理所である層雲峠取水堰にもその開度データをネットワークを介し送信しており、ダム管理装置では演算処理によって各排砂ゲートの放流量を自動的に算出表示できるようにしております。

現在、3月の竣工に向けて試運用中でございますが、本工事受注におきましては北海道電力株式会社様のご指導ならびに関係各社様にご協力をいただき厚くお礼申し上げます。



【遠隔操作卓】

DENCOM TOPICS 第39回ビジネスEXPOに出展しました

今回のビジネスEXPOでは『電力エネルギーインフラを支える技術』をテーマに出展し、過去最多の350名以上の皆様にご来場いただきました。

電力インフラ設備を守る装置やシステム技術のほか、BtoB向けセンサー製品を解りやすくご紹介するため、プロジェクトメンバーと技術担

当が工夫を凝らしました。当社の展示を介したコミュニケーションから、製品や技術の未来について想像を膨らませ、楽しい時間を過ごしていただけましたなら幸いです。

当社は今後も社会貢献できる技術力や製品情報を発信してまいります。

ご来場並びにご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

編 集 後 記

今回は、昨年の取り組み内容や、期待の若手社員をご紹介しました。

本年もよろしくお願いいたします。

(編集担当)



【当社ブースの様子】